



日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/> <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	9
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	10
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	11

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

年始のご挨拶

2018 年、新年明けましておめでとうございます。
皆様には日頃より JRRN の活動にご協力いただきまして大変ありがとうございます。

会員の数も個人会員 769 名、団体会員 60 名になり、全国各地で河川再生に取り組んで頂きました。特色ある様々な取り組みの様子は、楽しくもあり、また次への活動の意欲にも繋がっています。

さて、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックへ向けて 2020 年という年が大いに盛り上がっていきそうです。同時に 2020 年は私たちの活動にとっても忘れてはならない大切な年です。それは、2011 年から 2020 年までの 10 年間で、国連の定めた「国連生物多様性の 10 年」だということです。2011 年 10 月に名古屋で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)では、生物多様性保全のための新たな世界目標である「愛知目標」の達成に貢献するため、国際社会のあらゆるセクターが連携して生物多様性の問題に取り組むことを決めました。ちょうど東京オリンピック・パラリンピックの時に合わせて私たち日本は目標達成の宣言をしなければなりません。JRRN の会員の皆さんの活動は正に生物多様性への取り組みに外なりません。河川再生の現場はゴミの掃除に始まり、外来動植物の駆除や魚道の設置など多岐に渡ります。それらのすべての活動が愛知目標の達成に寄与するのです。

COP10 の愛知目標では、地球の生命の多様性が

確保され生態系が回復し、生物資源が持続可能に利用され、遺伝資源の利用から生ずる利益が公正かつ衡平に配分されることとしています。そのためには生物多様性への直接的な圧力を減少させ、持続可能な利用を促進すると決めました。

目標 5 では、2020 年までに、森林を含む自然生息地の損失の速度が少なくとも半減、また可能な場合にはゼロに近づき、また、それらの生息地の劣化と分断が顕著に減少することを目標にしました。目標 6 では全ての魚類、無脊椎動物の資源と水生植物が持続的な生態系を基盤として、回復計画や対策が枯渇した種に対して実施され、絶滅危惧種や脆弱な生態系に対する深刻な影響をなくし、資源、種、生態系への漁業の影響を生態学的な安全の限界の範囲内に抑えること。目標 7 では農業、養殖業、林業が行われる地域が、生物多様性の保全を確保するよう持続的に管理されること。目標 8 では、過剰栄養などによる汚染が、生態系機能と生物多様性に有害とならない水準まで抑えられること。目標 9 では侵略的外来種とその定着経路が特定され、優先順位付けられ、優先度の高い種が制御され又は根絶される、また、侵略的外来種の導入又は定着を防止するために定着経路を管理するための対策が講じられることをいずれも 2020 年までに達成することとしました。生物多様性条約では全体で 20 目標を細かく設定しています。

これらを達成することは国際公約であり、特に東京オリンピック・パラリンピックを招致した日本の行動は世界が注目しており、成果を出さなくてはなりません。これらの目標は同時に行動プロセスも大切な要素で、それを戦略目標として各国政府、各国国民にも実際に行動することを求めています。生態系、種及び遺伝子の多様性を守ることにより、生物多様性の状況を改善すること。生物多様性及び生態系サービスから得られる全ての人のための恩恵を強化すること。参加型計画立案、知識管理と能力開発を通じて実施を強化することなどですが、これらの活動は、まさに私たち JRRN の取り組みと一致するものです。全会員がこれらの目標を再認識した上で、2020 年目標達成に向けて大いに活動を加速させて行かなくてはなりません。私たち JRRN は全会員の活動が「C O P 1 0 愛知目標」の達成に貢献できるのです。大いに頑張りましょう。

さて持続可能な取り組みを目指す際にもう一つ活動計画に加えて頂きたいことがあります。それは子供たちをあらゆる活動に参加させて頂きたいということです。全国で様々な団体や、N P O、N G O、

地域コミュニティが河川再生の活動をしてくださっています。その参加の方々の年齢を見るとだんだん高齢化していると感じています。今、大いに活動して下さっている方々がお元気なうちに、次の世代の後継者を育てなければ、私たちの活動の持続可能性はどんどん低下していってしまいます。是非とも活動目標の大きな柱に、「子供たちの参加」を加えて頂きたいのです。

子供たちに参加させる際にもう一つお願いがあります。「子供たちをお客様にしない」ということです。河川というフィールドは完全に安全な場所ではありません。河川再生は自然環境側面だけではなく、治水、利水との共存を図ることでもあります。ここでは自然ということが持つ危険性も併せて教えなければなりません、河川の「恵みと脅威」を学び、子供たちを自立行動できるように育てることが、「持続可能な河川再生」となるのだと思います。

今年も、大いに JRRN の活動を広げていきましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

JRRN 代表理事 土屋信行



JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

写真で振り返る2017年のJRRN活動

H28 年度河川基金優秀成果表彰
<2017.2.3@東京>

(公財) 河川財団より「平成 28 年度 優秀成果表彰」をいただきました。

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/766.html>

H29 年度 JRRN 理事会開催
<2017.6.1@東京>

今後の活動の方向性や組織のあり方などについて審議が行われました。

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/784.html>

第 14 回 ARRN 国際フォーラム開催
<2017.8.17@マレーシア>

ARRN『第 14 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』を開催しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/485>

第 12 回 ARRN 運営会議開催
<2017.8.17@マレーシア>

ARRN 会長及び ARRN 事務局が韓国から日本(JRRN)へ移管されました。

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/800.html>

第 1 回アジア国際水週間参加
<2017.9.22@韓国・慶州市>

ARRN セッション「アジアの水問題—気候変動と河川再生」を開催しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/490>

第 6 回小さな自然再生研修会開催
<2017.10.17@福井・志津川>

九頭竜川流域の連続性確保をテーマに現地研修会を開催しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/500>

フォーラム:アジアの都市河川再生参加
<2017.11.25@香港>

香港大学・社会科学院主催の都市河川再生フォーラムや座談会に参加しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/512>

第 7 回小さな自然再生研修会開催
<2017.12.7@岡山・吉井川>

「吉井川のつながりを取り戻すには」をテーマに現地研修会を開催しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/517>

応用生態工学国際シンポジウム共催
<2017.12.13@東京>

応用生態工学会 2017 年度国際シンポジウムを共催しました。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/529>

(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

JRRN 国際交流活動 – 香港大学パブリックフォーラム「アジアの都市河川再生」等 参加報告

2017年11月25日(土)、香港大学・社会科学院において、一般市民や専門家を対象としたパブリックフォーラム「アジアの都市河川再生～挑戦と好機」が開催され、JRRNより二名が参加し、講演及び意見交換を通じて日本の経験を紹介して参りました。



JRRN 土屋代表による講演



講演者によるパネルディスカッション

本行事は、香港 Jockey Club 信託基金の助成を受けて香港大学社会科学院が取り組む3年間のプロジェクト「JC-WISE」の一環で開催されたもので、本プロジェクトは、香港における市民の水意識の啓発、及び「川と地域の繋がりを取り戻す」を主テーマに市民参加による河川再生を推進するものです。



◆JC-WISE プロジェクトホームページ(言語:英語):

<http://www.socsc.hku.hk/jcwise/>

パブリックフォーラムでは、香港や諸外国における河川再生の事例が紹介されるとともに、JRRNより、東京の河川再生の経験や水辺でできる小さな自然再生などについて紹介し、パネルディスカッションを通じて技術交流を深めました。

また、11月27日(月)には、香港で環境保全活動に取り組む9つのNGO団体関係者との座談会に参加しました。香港側より各団体の活動内容をご紹介頂くとともに、日本の河川再生における市民参加の変遷や活動内容、またJRRNが現在普及に取り組む「小さな自然再生」の考え方や事例を紹介し、香港での川での市民活動の活性化に向けた意見を交換しました。

特に香港では、2015年の政府施策として、都市部の河川の親水化や自然環境保全をNGOと連携して推進していくことが定められ、行政とNGOが協力しながら、諸外国の取組みを学ぶ真摯な姿勢を随所に見ることができました。

※香港政府の2015年施政方針

<https://www.policyaddress.gov.hk/2015/eng/p178.html>



香港 NGO 座談会の集合写真



JC-WISE プロジェクトチームへの事例集寄贈

最後に、香港の河川の様子を簡単にご紹介致します。
日本の約2倍の降水量があり、ほとんど平地が無く急斜面の多い香港では、基本的に河川内の立ち入りは安全上の理由から禁止されており、河川は洪水を安全に流下させるための排水路という考え方が一般的です。それ故、香港にて河川行政を担う組織も「渠務署」という名称で、子ども達が川で遊ぶ文化は無いそうです。



香港を流れる典型的な都市河川（Lam Tsuen 川）



香港郊外（中国境界付近）の河川（Sham Chun 川）



立ち入り禁止の案内表示（Sham Chun 川）

しかし、先に紹介した政府の河川管理に関わる方針転換を受け、香港では、諸外国の先進事例を学びながら、都市河川の親水化や多自然化に向けた事業や試験的な施工が続々と始まっております。

日本の川づくりの技術や市民による河川環境保全活動の経験に対する香港の期待は大きく、今後も活発な交流を通じ香港の川づくりに貢献できればと思います。



親水整備工事を実施中の Kai Tak 川（上流部）



親水整備後の Kai Tak 川（下流部）



多自然化を試験施工中の Lam Tsuen 川
（JRRN 事務局・和田彰）

JRRN 事務局からのお知らせ (4) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー『第7回小さな自然再生現地研修会 in 岡山』開催報告

2017年12月6日(水)、7日(木)の2日間、本年度の2回目となる『第7回「小さな自然再生」現地研修会』を、岡山県西粟倉村の吉井川水系にて開催致しました。地元企業であるエーゼロ株式会社、応用生態工学会(大阪地区会、岡山地区会)の協力を得て開催した今回の研修会では、地元及び遠方よりお越しの多様なセクターに属する計28名が参加し、「吉井川のつながりを取り戻すには小さな自然再生で何ができるか」をテーマに、河口から源流までの現地視察、座学とワークショップによる一泊二日の充実した研修内容となりました。

(1) 吉井川流域現地視察

吉井川河口から岡山県西粟倉村を流れる支川吉野川には50以上の横断構造物が設置されており、そのうち代表的な堰や地元の憩いの場となっている川づくりの目標(リファレンス)となる箇所を、バスで上流へ移動しながら視察を行いました。



吉井川流域現地視察の様子

(2) 座学研修

人と自然の共生する持続可能な社会を目指して活動しているエーゼロ株式会社の取り組み(ウナギの養殖)を紹介していただいた後、3名の講師による川の連続性、川と人のつながりを再生した事例発表を通じて、「小さな自然再生」に取り組む際の工夫、進め方、課題等について学びました。

■「小さな自然再生のすすめ」

(三橋弘宗: 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所)

小さな自然再生の基本的な考え方(定義、進め方、波及効果など)が事例を踏まえ紹介され、吉井川水系で取組める活動のヒントが示されました。

■「安価に川をつなぐときの注意点」

(浜野龍夫: 徳島大学大学院)

講師ご自身が手掛けてきた「水辺の小わざ魚道」について、設計のための技術論やコスト、効果に加え、現地活動から得た教訓を含めてご講演いただきました。

■「多主体協働による琵琶湖固有種ビワマスの

産卵・遡上環境再生の取り組み」

(佐藤祐一: 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

滋賀県・家棟川で実施されている「ビワマスプロジェクト」の経緯と保全・再生の取組み(産卵床造成、魚道設置等)が紹介され、関係者との協働のポイントが示されました。



廃校となった体育館を利用したウナギの養殖所(左)

座学研修の様子(右)

(3) ワークショップ

「吉井川のつながりを取り戻すには小さな自然再生で何ができるか」をテーマに、具体的な対策内容をワークショップ形式で提案、意見交換を行いました。3つの班に編成された参加者それぞれが、西粟倉村・吉井川水系で実施できそうな小さな自然再生のアイデアを出し合い、各班からの提案内容を発表した後、講師による総括をいただきながら、全体討議を行いました。協議の詳細については、後日報告書を公開致します。



ワークショップの様子

今回の現地研修会は、過年度の研修会に出席されたエーゼロ株式会社より地元での開催要望を受け、実現したものでした。地元行政である西粟倉村役場の皆様にもご出席をいただき、活動へのアイデア、エールをいただきました。研修会后、エーゼロ株式会社より、研修成果を踏まえた新たな活動の企画案の作成をスタートしているとのことご連絡をいただきました。研修会へご参加いただいた皆様、事前準備や当日の運営、その後のフォローアップに至るまでのご尽力をいただいた協力先の皆様に感謝申し上げます。

来年2月27日(火)開催の秋田研修会は、1月中旬より参加申込開始予定です。本活動は(公財)河川財団の河川整備基金の助成を受けて実施しています。

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

JRRN 事務局からのお知らせ (5) JRRN Activity Report

JRRN 国際交流活動 – 「応用生態工学会 2017 年度国際シンポジウム『不確実性を増す気候および環境ストレス下での河川流域管理 – アジアにおける洪水リスク対策と環境保全 – 』」 共催報告

2017 年 12 月 13 日、東京・大岡山の東京工業大学 レクチャーシアターにおいて、応用生態工学会 2017 年度国際シンポジウム『不確実性を増す気候および環境ストレス下での河川流域管理 – アジアにおける洪水リスク対策と環境保全 – 』が JRRN の共催で開催されましたので報告いたします。

史上初めて 3 つの台風が北海道に上陸するなど気候変動の兆候がアジア諸地域でも顕在化する中、将来気候の予測は不確実性を内包するため、予測困難な降雨による洪水・渇水リスクおよび継続的なその他環境ストレスへの対策と自然生態系の保全を両立させる順応的な河川・流域管理が求められています。

本シンポジウムは、こうしたニーズに応じ、同様の課題に直面するアジア諸外国とともに事例・知見を共有し、今後の課題や展望を議論することを目的として開催されました。

応用生態工学会 2017 年度国際シンポジウム

【日時】2017 年 12 月 13 日 (水) 13:00~17:00

【主催】応用生態工学会

【共催】日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

【プログラム】総司会：根岸 淳二郎 (北海道大学 准教授)

<基調講演>

『メコン生態系の危機：水管理インフラ開発、気候変動、および土地利用変化への適応』Tom A. Cochrane (University of Canterbury, New Zealand, Associate professor)

<講演>

『全球から局所スケールでの気候変動による洪水および水資源への影響と近年の日本における災害からの示唆』鼎 信次郎 (東京工業大学 教授)

『水災害分野における気候変動適応策について』森本 輝 (国土交通省 水管理・国土保全局)

『香港における気候変動に係る都市排水インフラ計画・整備』Raymond Tai (香港特別行政区政府 渠務署)

『グリーンインフラによる気候変動適応と生物多様性保全』中村 太士 (北海道大学 教授)

<パネルディスカッション>

コーディネーター：渡辺 幸三 (愛媛大学 教授)

パネリスト：講演者

※本シンポジウムは、公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けて開催されました。



会場の様子



パネルディスカッション

シンポジウムでは、根岸 淳二郎准教授 (北海道大学) による総司会のもと、基調講演、講演、およびパネルディスカッションが行われました。まず、基調講演では、ニュージーランド カンタベリー大学のコクラン准教授によってメコン川流域の事例について紹介いただきました。続いて、講演ではグリーンインフラの整備、気候変動に伴う気象災害の激甚化に耐えうる都市づくりなどの、現在の水資源管理・洪水対策・生態系保全における 4 つトピックについて紹介頂きました。

パネルディスカッションでは、渡辺 幸三教授 (愛媛大学) がコーディネーターを、この日の講演者 5 名がパネリストをつとめました。①気象/水文モデル研究の今後の方向性、②気候変動適応策 (防災・利水) と生態系保全とのバランスの考え方、③ハイブリッドインフラ：グリーンインフラと既存インフラの融合 (インフラの強靱性と持続性を高める)、④適応策の政策決定や実行はどのように行われているのか？ の 4 つの論点で議論を行いました。当日は、行政関係者、技術者、研究者、学生などの参加があり、会場からも活発な意見が交わされました。

(JRRN 事務局・澤田みつ子)

JRRN 事務局からのお知らせ (6) JRRN Activity Report

JRRN 国際交流活動－「応用生態工学会国際シンポ 2017」技術視察行事の支援報告

前頁でご報告した国際シンポジウムの関連行事として、海外講師による首都圏の現場視察が行われましたので、概要をご報告させていただきます。

【1】鶴見川流域の技術視察（2017年12月14日）

国土交通省京浜河川事務所のご協力いただき、多摩川、鶴見川の水防災施設（3箇所）の視察と担当職員との技術的な意見交換を行いました。

① 大師河原河川防災ステーション

多摩川の河口域に位置する大師河原河川防災ステーションでは、地域防災活動拠点としての災害時と平常時の役割等について意見交換を行いました。



② 高規格堤防整備地区（下丸子地区）

下丸子地区の高規格堤防整備地区では、高規格堤防上を歩きながら、建設経緯とその多面的な機能等について意見交換を行いました。



③ 鶴見川流域センター

鶴見川流域センターでは、流域内人口密度が全国1位の水防災の要所である鶴見川流域で実施されている総合治水対策について講習を受けた後、屋上から多目的遊水地を眺望しながら治水効果や維持管理等について意見交換を行いました。



【2】都内親水整備の技術視察（2017年12月15日）

現地視察の二日目は、江戸川区にご協力を頂き、江戸川区内の5か所の親水整備箇所を中心に周りながら、設計の考え方や維持管理などについて香港政府職員と江戸川区職員による技術交流が行われました。

- ① 新川
- ② 古川親水公園
- ③ 小松川境川親水公園
- ④ 小松川親水公園
- ⑤ 旧中川

香港では、2015年より河川の親水化が国の施策として推進されることになり、これまで排水路として整備されてきた複数の河川の親水整備が始まっています。

今回視察した江戸川区は、1970年代より古川親水河川を皮切りに多くの親水河川や親水緑道が整備され、時代と共に地域のニーズを踏まえた改善を繰り返しながら、区民に愛される水辺整備を現在も続けています。

特に本視察では、時代とともに変わってきた技術思想や配慮事項などについて技術交流が行われ、江戸川区が培った経験を共有する素晴らしい機会となりました。



新川（西水門広場）



新川（さくら館付近）



古川親水公園



小松川境川親水公園



小松川境川親水公園



旧中川

(JRRN 事務局・後藤勝洋／和田彰)

水辺からのメッセージ No.104

岡村幸二 (JRRN 会員)

さわやかな空気が広がる：

風致地区に囲まれた公園内にいると都会の騒がしさと無縁に



撮影：2013 年 6 月（東京都杉並区・善福寺池）

◆かつては都民の水源・善福寺池

善福寺池を源とし杉並区を流れて、中野区で神田川に合流する善福寺川。江戸期の主要な上水（のちの神田上水）とされ、明治 34 年まで東京最古の水道源として使われました。流域にある多くの遺跡からはかつての流域の豊かな生活が想像されます。

◆東京で有数の都市計画公園

ここは元もと交通の便に恵まれず、都市化の中で自然の景観が保存されました。1930 年に旧都市計画法の風致地区に指定され、1957 年には都市計画公園に指定され現在に至ります。

（開園面積 78,622m²、池面積 37,000m²）

『第8回「小さな自然再生」現地研修会 in 秋田・雄物川水系』開催予告

本年度3回目となる、「小さな自然再生」の普及促進に向けた現地研修会を、秋田県仙北市にて2月27日(火)に開催致します。

2018年1月中旬より参加申込を開始する予定ですので、

もうしばらくお待ちください。

【開催日】2018年2月27日(火)

【会場】秋田県仙北市内(最終調整中)

【定員】100名(予定)

【内容】午前:「小さな自然再生」に関する座学研修
午後:ワークショップ

【主催】「小さな自然再生」研究会

【共催】秋田県建設部河川砂防課、日本河川・流域再生ネットワーク



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 水辺からはじまる 生態系ネットワーク全国フォーラム 2017 (1/11 開催)

公益財団法人日本生態系協会より、1/11(木)に開催される生態系ネットワーク全国フォーラムのご案内を頂きました。



■日時: 2018年1月11日(木)

14:00~17:15

■場所: 東京大学伊藤国際学術研究センター2階 伊藤謝恩ホール

■主催: 国土交通省

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2976.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 全国川ごみネットワーク調査報告会 (1/19 開催)

全国川ごみネットワークより、全国川ごみネットワーク「調査報告会」のご案内を頂きました。

■日時: 2018年1月19日(金)
10:30~12:00

■場所: ハロ一会議室八丁堀駅前(中央区八丁堀1-14-7)

■主催: 全国川ごみネットワーク

■参加費: 無料

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2970.html>



【海外からの提供情報】

■ 「RRC (英国河川再生センター) 最新ニュースレター」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報(2017年11月号)が事務局より届きました。

本号では、RRC 総会や RRC 主催研修行事開催案内、河川再生功労者の紹介、RRC が担う河川再生に関わる各種サービスが紹介されています。



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2959.html>

【海外からの提供情報】

■ 「ECRR (欧州河川再生センター) 最新ニュースレター」ご紹介

ECRR (欧州河川再生センター) の最新会報(2017年12月号)が事務局より届きました。

本号では、ECRR 幹部会報告、フランスの3つの河川再生事例、英国河川再生センターや国際湿地協会等が紹介されています。



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2973.html>

会議・イベント案内 (2018年1月以降) Event Information

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■「土木学会デザイン賞 2017」授賞式

○日時：2018年1月21日(日) 11:00～17:15

○主催：公益社団法人土木学会 景観・デザイン委員会

○場所：土木学会講堂(東京都新宿区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2949.html>

■ダム下流の生態系保全に関するセミナー

○日時：2018年1月25日(木) 13:30-17:45

○主催：水源地生態研究会

○場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM (愛知県名古屋市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2709.html>

■応用生態工学会第9回全国フィールドシンポジウム in 阿南

○日時：2018年1月27日(土)～28日(日)

○主催：応用生態工学会、国土交通省 那賀川河川事務所

○場所：阿南市 ひまわり会館(徳島県阿南市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2707.html>

■ILEC 30周年記念シンポジウム

○日時：2018年1月27日(土) 13:30 - 16:30

○主催：公益財団法人 国際湖沼環境委員会

○場所：琵琶湖博物館ホール(滋賀県草津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2711.html>

■第十三回「外来魚情報交換会」

○日時：2018年1月27日(土)～28日(日)

○主催：琵琶湖を戻す会

○場所：草津市立まちづくりセンター(滋賀県草津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2679.html>

■第40回 河川情報センター講演会

○日時：2018年1月30日(火) 13:25～16:40

○主催：一般財団法人河川情報センター

○場所：OMMビル 2F 201～202 会議室(大阪市中央区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2715.html>

■自然環境復元学会 第18回全国大会(研究発表会)

○日時：2018年2月14日(水) 10:00～17:00

○主催：自然環境復元学会

○場所：日本大学駿河台キャンパス(東京都千代田区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2705.html>

■2018年度河川技術に関するシンポジウム

○日時：2018年6月12日(火)～13日(水)

○主催：土木学会水工学委員会河川部会

○場所：東京大学農学部弥生講堂(東京都文京区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2703.html>

書籍等の紹介 Publications

■水辺の小さな自然再生～あなたもはじめてみませんか？(2017.3 発行)

・発行：「小さな自然再生」研究会／日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

・発行年月：2017年3月

・ページ数：16ページ



水辺でできる小さな自然再生の更なる普及促進を目的に、小さな自然再生の概要や取組む際の留意点、また「小さな自然再生」研究会による普及促進活動を紹介した簡易冊子です。

■河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～(2014.3 発刊)

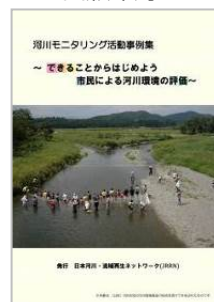
・監修：白川直樹 筑波大学准教授(JRRN 理事)

・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関

・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室

・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■上記冊子の「印刷製本版」入手方法

※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

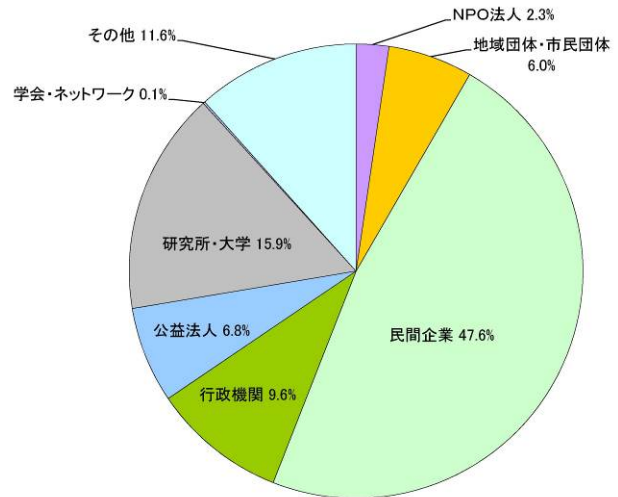
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週1回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2017年12月31日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数: 769名、団体会員数: 60団体)

※12月の新規入会数: 個人会員 2, 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRAN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照: <http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財)リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

